

第5回獅子吼ゴールデンカップ 2012 大会レポート

獅子吼ゴールデンカップ実行委員会
実行委員長 初瀬 宗子

今年も鶴来のほうらい祭りに日程を合わせ、第5回の獅子吼ゴールデンカップを開催しました。本大会は、スカイスポーツをシンプルに楽しみながら、基礎技術の向上を目指すという趣旨で2008年より行っています。今年は石川県内及び福井・富山の北陸勢に加え、毎回参加いただいている愛知・岐阜の「バーズアイビュー」のベテラン勢や静岡県朝霧高原「西富士友の会」でフライトするパイロットなど、遠く関東各地からも選手を迎え、あいにくの空模様ではありましたが、無事全日程を終了しました。競技にはパラグライダー会員もオープン参加して、ハング・パラ両方のパイロットが親睦を深めつつ、にぎやかに獅子吼の空をフライトすることができました。

10月6日（土）大会初日 曇 北～北東の風

8時より選手受付、ハンググライダー16名、パラグライダー6名がエントリー。参加賞のTシャツなど配布。



9時よりスカイ獅子吼パラグライダースクール駐車場のテント前で開会式、初瀬実行委員長より歓迎のあいさつ、続いて金子外幸競技委員長より、本日の競技内容について説明がありました。9時半からスカイ獅子吼山頂に向けて、選手のハンググライダーを載せて各車出発。テイクオフ到着後は早速機体の組み立てに入りました。

しかし、山頂の風は北東の風吹きおろし、時折無風となる状態を繰り返し、パラグライダーがぼつり、ぼつりとフライト。そんな中、金子競技委員長が先頭を切ってテイクオフし競技開始となりました。





競技は気象条件を考慮して、獲得高度やランディングアプローチの正確さの他に、着地精度を競うターゲットを競う内容で行い、風の様子を見ながら断続的に続き、午後3時過ぎ選手全員フライトすることができました。地元勢が地の利を生かしてターゲットに迫るなか、県外勢も唯一高度獲得するなど、ベテランパイロットが積極的にフライトする姿勢で底力をみせてくれました。

午後6時スカイレジャー協議会ハウスにて、スタッフ手作りの豚汁・パーク獅子吼の牛カレー・地元産のお造り・オードブルなどを肴に、ハング・パラ合同親睦会を開始。成績発表を見ながら今日のフライトを振り返りつつ、それぞれのエリアの情報交換などを行い、にぎやかな夜となりました。

宴たけなわの8時過ぎ、夜のメインイベント「ほうらい祭り」見物へ移動、街中のうらら館目指して20名ほどが歩きました。うらら館では、産業課の皆様のご好意でふるまい料理や地元のお酒をいただき、神輿や造りものが練り歩く町や屋台見物しながらそぞろ歩き、夜はスタッフ・選手ともそれぞれの民宿へと帰りました。



10月7日（日）大会最終日 曇一時雨 北東の風

朝9時集合、北東の追い風が次第に強くなる中、金子競技委員長から本日の競技キャンセルが言い渡されました。残念ながら2日目のフライトはできないまま、午前10時から閉会式となりました。

初日の成績により、地元の湯浅選手（石川県小松市）が優勝、準優勝に獅子吼会員の大森選手（富山県）が続き、3位に先頭を切ってフライトした石井選手（神奈川県）が安定した技術で入賞となりました。上位入賞選手には、JHFから賞状、実行委員会より賞金及びデサント社のスポーツウェア、m t .DAX社のバッグなどの賞品、優勝者には獅子頭ゴールドトロフィ、さらに選手全員に賞品を授与しました。



残念ながら今大会は天候に恵まれず、渋いコンディションのもと開催いたしました。選手の皆様
様の果敢なフライトで競技が成立したことをここにご報告いたします。今大会の開催にあたり多大
なご協力をいただきました白山市産業課の皆様・パーク獅子吼・スカイ獅子吼様・後援の北陸中日
新聞社様・獅子吼レッズのスタッフの皆様から心から感謝申し上げます。



スタッフ

金子 外幸 山中 智晶 小林 遼平 金子 晴美
森田 孝 初瀬 宗子 岡田 直久
近藤 理ト 獅子吼レッズ一同

スカイ獅子吼パラグライダースクール